

令和 8 年度 県立鉾田第一高等学校自己評価表

目指す生徒像	高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備えた生徒 グローバルな視点と行動力をもった生徒		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	①自ら目標を立て、学び続けることができる人材の育成 ②社会の課題と自分事として捉え、行動に移すことができる人財の育成 ③礼節を備えた骨太のグローバルリーダーの育成 <本校生の未来の例> ㊦公的な機関で社会を支える。㊧医療従事者として社会を支える。㊨起業して社会を支える。㊩企業内のリーダーとして社会を支える。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応する。 ②生徒の主体的な学習活動、探究活動を重視する。 ③未来を牽引するための進路実現に向けた高度な学力を身につけさせる。 (理工・医療・社会科学の分野のカリキュラム・マネジメントの充実やプロジェクトの実施)	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	①様々な分野に興味をもち、主体的に探究しようという意欲のある生徒 ②課題を見だし、主体的な探究によりその諸課題を解決しようと努める生徒 ③他者と協働し、目標の実現に向けて、壁を乗り越え、日々努力する生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
日々のきめ細かく計画的な指導により、基礎的基本的な知識・技能の定着はみられた。家庭学習時間については、休日の学習時間に伸張がみられたが、平日の学習時間の確保に課題が残る。授業の中での ICT の有効活用が進み、生徒の学習における ICT 活用の意識は高まっている。一方で、課題解決型学習による学びの深化には研究の余地がある。対話的な学びと個別最適化された学習とを両立させる学習指導の研究を進めたい。 大学入試全般に安全志向が見られ、学校推薦型選抜や総合型選抜で早期に進路先を決定する生徒が多かった。その一方で、最後まで第一志望を貫き、一般選抜で難関校に合格する生徒も多く見られた。リモートでの面接実施など、試験方法も多様化しているため、正確な情報収集と、き	基礎学力・授業の質の一層の向上	・ICTを活用した効果的な授業を展開する。 ・対話的で主体的な学びを推進する。 ・探究活動の充実を図る。	
	個に対応した指導の充実	・個別最適化された学習支援の充実を図る。 ・多様な学習スタイルへの対応を促進する。 ・多様な進路選択を可能とする教育環境の整備を進める。	
	進路意識・進路実績の一層の向上	・本校における進路指針の徹底を図り、職員一丸となって生徒の進路意識の高揚および進路目標の達成につなげる。 ・各年次の進路行事の意義を十分に理解させ、自己の在り方生き方について考えさせる。 ・個別面談を充実させ、進路目標を明確化させる。 ・多様な入試方式に対応するため、大学説明会や入試分析会等に積極的に参加し正確な情報収集を行い、進路支援に活用する。 ・国公立大学・難関私立大学の合格者数増を目指す。	

別紙様式 2 (高)

め細かな対応が必要である。 運動部、文化部ともに加入率が徐々に高まっており、県大会・関東大会・全国大会で活躍した。生徒の主体的活動を促すホームルーム、委員会活動、学校行事についてより一層の内容の充実が必要である。 生徒は概ね落ち着いた学校生活を送っているが、若干名、制服の着こなしが整っていなかったり、「ながらスマホ」などスマホの適切な利用に欠けたりしている生徒が見受けられる。また、自律心に欠ける生徒も若干名見られ、自己指導能力の育成のための支援が必要である。本校が目指す生徒支援について、全職員の共通理解を図り進めていきたい。 情報発信量は増加したが、まだ最新のデータが外部に的確かつ速やかに伝えられていないことがある。学校評議員制度の活用やホームページ、フェイスブック、アンケート(Google Forms)などの広報広聴活動を工夫する。 働き方改革については、教員の意識は高まってきているが、超過勤務時間が月 45 時間を超える教員が月平均 17%いる。更に ICT の活用、業務の見直しと精選を推進していきたい。	特別活動・部活動の一層の活性化	・生徒の自主的な運営をサポートすることで、学校行事へのより積極的な参加を促す。 ・学校行事後の反省を次年度に向けて有効活用するためのシステムを構築する。 ・学校行事後に感想をまとめ、キャリアパスポート等を利用することにより、学びを蓄積するとともに振り返りを行う。 ・部活動の価値を再認識させ、新入生の加入率を上げるように工夫する。	
	自己指導能力の育成	・日頃から生徒と接する機会を多くもち、生徒と教員が相談しやすい関係を構築するとともに、生徒理解に努め、すべての教育活動をととして生徒の観察等を行うことで、変化を敏感に察知し、適宜、適切な支援を講じる。	
	学校評価の充実	・データに基づく客観的で多角的な評価の強化を促進する。 ・教職員による学校自己評価の基づく改善を促進する。 ・学校と家庭・地域社会の連携を強化する。	
	働き方改革	・業務の目的と目標を明らかにし、効果的な教育活動を行う。業務の見直しと精選を行い、スクラップ&ビルドを積極的に推進する。 ・ICT 活用等を推進し、事務作業の効率化や教材の共有化を進める。 ・教職員一人一人が自身の働き方についての意識を高め、ワークライフバランスを大切にしながら、生き生きと職務にあたるできるよう努める。	
	授業改善	・生徒による授業評価アンケートにおける「先生は ICT や板書、資料などを効果的に活用する等、教え方を工夫している。」の質問項目で、校内の平均値 3.6 以上を維持するため、校内授業参観や教科内研修を活性化させる。	

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
国語	・学習課題の明確化と基礎学力の定着	・シラバス・ポートフォリオを活用した効果的な授業展開の実現		
		・小テストを活用した基本的事項の確認と定着		
		・長期休業等を利用した、目的別課外の実施による個別最適な学習の実現		
		・指導力等の向上を目指した教科内研修会や相互の授業見学の実施		
	・読解力の養成	・文章の考察力や分析力を養成する授業展開の実現		
		・多様な教材を活用した学習による、国語への関心や学習に対する主体性の育成		
		・読解に必要な知識（評論用語や古典文法など）の定着を目指した、効果的な副教材の活用		
	・表現指導の充実	・文章を要約したり、意見をまとめたりする活動を通じた、表現力や思考力を深める授業の充実		
		・3年間を見通した小論文の指導の充実		
		・読書感想文コンクール等への参加を通じた、表現力の向上		
	・授業改善	・教科内研修、授業の相互見学を活用した授業スキルの向上		
地理歴史公民	・ICTを活用した学習指導の研究	・社会的な事象等について調べまとめる技能の育成を図り、学びの質の向上に努める。		
	・基礎的内容の理解の徹底と授業方法の研究	・1・2年次では「授業第一主義」のもと、学習態度を涵養し、基礎的知識の確実な習得を図り、思考力・判断力・表現力の育成に努める。		
		・3年次では「授業第一主義」のもと、課外授業・後期時間割・学校設定科目をとおして、個の進路に応じた学力向上に努める。		
		・小テストを実施して知識の定着を図り、生徒の理解力を把握しながら授業を計画する。		
		・科目の特性に応じた教材の創意工夫に努め、「分かりやすい授業」の展開に努める。		
		・教員研修講座等の受講や定期考査等の作問方法の工夫をとおし、共通テストに向けての対策・指導方法の研究を行う。		
		・進路実現を図るため、担当者間による模擬試験結果の分析を行う。		

別紙様式 2 (高)

	・現代の社会への関心の高揚 ・授業改善	・テーマを定めた主題学習を展開し、現代の社会への興味関心を高めさせる。 ・教科内研修、授業の相互見学を活用した授業スキルの向上			
数学	・きめ細かな授業の展開	・少人数授業や習熟度別授業の実施により、目の行き届いた丁寧な指導を実践し、基礎基本事項の確実な定着を図る。			
	・家庭学習習慣の確立と応用力の養成	・1、2年次：自分が必要とする課題を自ら見つけ解決する習慣をつけさせる。基礎の定着を図るとともに、必要に応じて応用問題にも慣れさせる。			
		・3年次：文系理系それぞれの課題を自ら解くことにより、家庭学習時間の増加と学習内容の定着を図る。			
	・習熟度、進路希望に応じた指導	・2年次：数学ⅡBにおいて、文系：教科書の基本事項、理系：教科書～参考書(黄チャート)の内容の定着を目標とし、習熟度に応じた指導を徹底する。			
		・3年次：5・6組を2分割し、受験型(ⅡBC・Ⅲ)に対応した授業を展開する。			
	・意欲ある生徒への指導	・1年次：長期休業中の課外授業において難度のやや高い問題を精選・提供し、意欲ある生徒の数学力の伸長を図る。			
		・2年次：長期休業中の課外授業において習熟度に応じて基礎の確認から応用問題までを精選・提供し、意欲ある生徒の数学力の伸長を図る。上記に加えて、希望者に対して放課後の課外授業を行い、実力養成を図る。			
		・3年次理系の数学ⅢC選択者に対しては、課外授業などをとおして実力養成を図る。			
		・放課後等に質問に訪れる生徒には担当年次の枠を越えて随時対応する。数学研究室をその環境として整備する。			
	・指導技術の向上・指導方法の工夫をととした授業改善	・担当年次の枠を越えて、日頃より各種問題の解法についての研究や意見交換、授業参観を行い、指導力、指導方法の向上を図り、授業改善に努める。			
		・電子黒板などのICT機器のより効果的な活用法を研究する。			
理科	・学力の向上	・授業や考查で精選した問題に触れ、確かな学力の定着を図り、生徒それぞれの進路希望に応じた学力試験に対応できる学力の養成を図る。 ・学習目標に応じた学習レポートの工夫改善をはかる。			
	・授業改善	・ICTや資料集などを効果的に活用し、自然科学の事象・現象を分かりやすく扱う授業改善に取り組む。			

別紙様式 2 (高)

	・実験、観察の充実	・実験・観察を積極的に取り入れ、科学的な思考力・判断力・表現力の育成を図るとともに、知的好奇心を喚起し、生徒の学習意欲の向上に努める。				
		・実験・観察器具や設備の整備・充実を計画的に進め、安全面に配慮した学習環境の改善を図ることで、実験・観察活動の質の向上につなげる。				
	・指導力の向上	・相互授業参観や研修内容の報告会などを通じて研鑽を重ね、知的好奇心を喚起する授業づくりに努めるとともに、生徒による授業評価アンケートにおいて、より高い評価を得られるよう改善を図る。				
保健体育	・体力の向上	・新体力テストの総合評価を伸ばす。				
		・生徒の運動時間を確保し、自ら体力を高める学習の工夫を行う。				
	・選択授業の充実	・選択授業をとおして運動の楽しさを実感させ、自主的・自発的に活動できる能力を養う。				
	・規範意識の遵守	・授業をとおして、ルールやマナー及び時間や安全を守る態度を養う。				
	・副教材を利用した授業の工夫	・保健ノート、パワーポイント、DVDなどを活用し、わかりやすい授業の展開を図る。				
芸術	・主体的表現活動	・芸術に関する各科目の特質について理解し、意図に基づいて表現するための技能を身につけるようにする。				
		・創造的な表現を工夫し、芸術の良さや美しさを深く味わったりすることが出来るようにする。				
		・ICTを活用した授業の展開を図り、授業への積極的な参加を促す。				
		・年間を通じ音楽会・展覧会等に足を運ばせ、鑑賞に関する資質・能力を育成する。				
	・芸術を愛好する心の育成	・生涯にわたり芸術を愛好する心情を育み、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。				
		・上級進学をめざす者へ補習等を実施し、個々の力を伸ばす。				
		・個人指導の充実を図り、添削や助言等を示す。				
	・授業改善	・音楽・美術・書道の3科目で連携し「芸術発表会」を実施する。				
英語	・シラバスを活用した、具体的目標を意識させる学習習慣の	・シラバスを活用し、主体的に生徒が学習できるようにする。				
		・シラバスの内容をさらに充実させ、生徒にとっては利用しやすく、教員にとっては指導目標が共有できるものとする。				
		・意欲的に英語学習ができるよう、英検等の外部試験やALTの活用を促進す				

別紙様式 2 (高)

	確立	る。		
		・確認テスト等を適宜実施し、学習の習慣化を一層図る。		
	・生徒の多様な学力に応じた指導の充実	・1年次：予習・授業・復習のサイクルの確立を図るとともに、4技能を総合的に伸ばせるよう、活動と指導法の創意工夫に努める。		
		・2年次：各科目で課題を工夫し家庭学習へとつなげ、自立学習できるよう促す。「話す」・「書く」のアウトプット活動を行い適切に評価することで、4技能を総合的に伸ばすことに努める。		
		・3年次：家庭学習と授業を接続し、科目の特性に応じて、予習・授業・復習のサイクルをまわすことで、主体的な学習スタイルを確立する。実践的な問題も適宜取り扱い、英語力の多角的な向上に努める。		
		・成績下位者へのフォローを補習などで確実にを行う。		
	・生徒の希望進路に応じた様々な指導と実践	・進路実現のための英語力向上を目的とした指導に加え、個々の学習到達度を確認するための単元テスト、パフォーマンステスト等を実施する。		
		・英検、模擬試験等を有効に活用しながら、総合的な英語力の育成を意識した指導を実践する。		
		・生徒個々人の目標を意識した指導、レベルに応じた問題演習を行う。		
		・教科内で情報交換を深め指導目標を共有し、3年間を見通した指導が展開できるよう協力することで、各人が個々の指導力の向上を目指す。		
		・授業における効果的な指導法・評価方法について、研修会参加等を通じて研鑽・研究を進める。		
	・授業改善	・生徒による授業評価アンケートの平均値向上に向けて、積極的な授業見学やオンライン研修など、教科内での研修をより一層充実させる。		
	・英語4技能の向上	・全ての年次において、ICTを適切に活用しながら、「聴く・話す・読む・書く」の4技能包括型の活動を積極的に取り入れた授業を実践する。		
		・3年次では特に論理的に考え、社会的な事柄について英語で表現する能力を伸ばす。		
家庭	・生活を主体的に営むために必要な基礎的知識・技能の習得	・生活実態に応じた実践的・体験的な活動や実習の充実を図る。		
		・生徒の生活に即した学習課題、学習活動を設定する。		

別紙様式 2 (高)

	・生活を主体的に創造しようとする実践的態度の育成	・ICT 機器を活用し、生活に関する知識や技術を習得できるようにする。			
		・問題解決的な学習活動をとおして、生涯を見とおして生活課題を解決する力を養う。			
情報	・授業改善	・授業評価アンケートを分析し、授業改善を継続して行う。			
	・情報活用能力の育成	・表計算ソフトや文書作成ソフトを用いて、様々なデータを扱う上で最小限心得ておくべき資質を身につけさせる。			
	・情報セキュリティ意識の向上	・情報活用に関する興味関心をもたせるだけでなく、情報化の負の部分に配慮し、情報モラルやセキュリティに対する意識を涵養する。			
	・授業時数の確保	・状況に応じた柔軟な日課変更も検討しつつ、授業時間を確保するとともに、可能な限り曜日毎の授業時数の均等化を図る。			
教務	・教師の学習指導および生徒の学習の取り組み方の研究と改善	・「生徒による授業評価アンケート」を分析し、学習指導における課題を明らかにするとともに、校内授業研修（年3回）等、教師が学習指導法の改善に積極的に取り組む環境を整え、生徒のより意欲的な学習に繋げる。			
		・「学習に関するアンケート」を実施・分析することで、生徒の実態に即した効果的な学習指導方法の研究と改善に繋げる。			
	・進学重視型単位制の充実	・教育課程が本校生の多様な進路実現に繋がるものとなっているかを検証し、一層のカリキュラム・マネジメントの推進を図る。			
		・少人数授業・習熟度別授業におけるグループ編制の工夫などをとおして、より効果的な授業展開の方策を研究し、生徒の学力向上を図る。			
	・行事等の円滑な運営	・各分掌との連絡を密にし、学校行事の日程や日課の調整を行い、学校運営を円滑にする。また、行事ごとに改善点を確認し、次年度への運営に反映させる。			
	・成績等の円滑な処理	・統合型校務支援システムを活用した成績処理や要録等の各種帳票類の円滑な作成に寄与するような校内システムと連絡体制を構築する。			
総務企画	・本校の魅力や生徒の活動を積極的に発信し、附属中を含めた「銚一ブラン	・スクールガイド、ポスターの作成			
		・プロモーションビデオの活用			
		・中学校、学習塾訪問の実施			
		・進学フェアへの参加			
		・オープンキャンパス（中学生対象）の企画、運営			

別紙様式 2 (高)

	ド」の確立	・学校公式ウェブページの内容の充実			
	・本校に対する外部の声の収集	・学校評価アンケートの実施、集計、分析			
	・持続可能な情報環境の維持と情報資産の有効利用	・事務室と連携し、校内の各セグメントの効率的な運用と管理を目指す。			
		・情報端末機器（P C・タブレット）の保守・管理に努める。			
		・緊急情報メールシステムの有効な運用に努める。			
		・校務支援システムの管理・運営を行い、有効な運用に努める。			
		・情報セキュリティの実施手順に沿って、情報機器等の扱いに関する内規等を整備する。			
		・茨城県教育情報ネットワークの教員用アカウントならびに生徒用アカウントの管理・運用に努める。			
	・総合的な探究の時間、ほこいちプロジェクトの円滑な運用	・プログラムを充実させ、生徒たちの取り組みを大学受験に対応できるレベルまで高める。			
		・株式会社 IRODORI の「ワガママ Lab」を導入し統一のプログラムを実施することで、持続可能なプログラムの確立を目指す。			
生徒支援 (生徒支援)	・安心、安全な学校の構築 ・スマートフォンの適切な利用 ・基本的生活習慣の確立及び規範意識の高揚（自己指導能力の育成） ・各年次学年、各部署等と連携した事件事故等の未然防止と早期発見・初	○生活関係			
		・各年次、各学年で共通理解を図り、服装頭髪指導を実施する。			
		・集会、ホームルーム等で、ルールやマナー・モラルについての意識の啓発を図る。			
		・登校指導を実施し、制服の正しい着こなしや挨拶の励行を図る。			
		・さわやかマナーアップ運動をとおして、マナーについての意識の啓発を図る。			
		・遅刻カードを活用し、遅刻者の減少及び時間厳守の意識を育てる。			
		・貴重品の自己管理及び移動時の教室施錠を徹底させる。			
		・インターネット安心安全利用講座を実施し、スマートフォンの適切な利用について指導する。			
		・いじめのない学校づくりに努める。			
		・ハートフルアンケートを実施し、いじめや問題行動の早期発見・初期対応に努める。			

別紙様式 2 (高)

	期対応	・薬物乱用防止教室の実施			
		・生徒理解、生徒尊重に努める。			
		・報告、連絡、相談を徹底し、初期対応に努める。			
	・スクールバスの円滑、安全な運行の確保 ・交通事故未然防止	○交通関係			
		・スクールバスの安全な運行を確保するため、登下校指導を実施する。			
		・運行計画の策定			
		・原付バイク通学者に対する定期的な交通指導の実施			
		・原付バイク実技講習会の実施			
		・自転車点検及び交通安全指導の実施			
		・交通安全講話の実施			
生徒支援 (教育相談)	・支援が必要な生徒の早期発見	・『相談室だより』などによる生徒・保護者への広報			
		・「教育相談アンケート」の実施と、その結果の分析・検討			
		・会議等での情報共有			
		・生徒情報の整理と関係者によるミーティング			
	・適切な援助活動の実施	・援助が必要な生徒、保護者との面談			
		・関係者間の円滑な連携への援助			
		・スクールカウンセラーとの連絡、調整			
		・特別な支援を要する生徒についての情報交換及びケース会議			
	・教育相談研修	・校内研修会（各部との連携等）の計画と実施			
進路支援	・体系的な進路指導の実施	・定期的な部会招集による計画的な進路行事の運営・調整			
		・1年次：進路講演会・職業講話等による進路適性の把握と職業観の育成			
		・2年次：大学出張講義・卒業生と語る会等による進路知識を獲得			
		・3年次：進路検討会議等による進学希望先の共有・指導 面接・小論文指導等の充実			
	・進路情報の収集と提供	・各年次および教科における模試結果分析の促進			
		・指導上の課題の明確化と職員間の情報共有強化			
		・生徒面談等による生徒の動向把握および適切な情報提供の実施			
		・高大接続改革・入試変更点等に関する情報収集および分析			
	・学力向上	・『進路資料』『進路便り』の発行による、生徒・保護者への適切な情報提供			
		・平日の家庭学習時間「学年数＋1時間」・休日の家庭学習時間「学年数＋2時			

別紙様式 2 (高)

		間」を基準とした家庭学習の習慣化促進			
		・放課後・長期休業中の課外等の特別講習の充実			
		・長期休業中に実施される教育研修等への参加奨励			
	・学習環境の整備	・平日および土曜日の尚志館開放による、生徒の自学自習の習慣化促進			
	・附属中学校との連携	・附属中学校との連携による、進学指導の検討促進			
特別活動	・学校行事の改善	・各種行事について、前年度の振り返りを最大限に活かし、生徒の意見やアイデアを尊重しながら、本校として実現可能な魅力ある行事の実践に努める。また、生徒が主体的に企画・運営に関われるように支援する。また、キャリアパスポートを利用し、学びの蓄積および振り返りを行う。			
	・生徒会活動の活性化	・生徒会サポーター制度を導入し、役員の活動を支援するとともに次期役員候補として育てる。			
	・委員会活動の活性化	・各種委員会の活動内容を見直すとともに、学校行事や日々の学校生活の中に各種委員の活動の場を積極的に設け活用する。			
	・部活動の充実	・部・同好会への加入率 80%を達成 (R 7 から持ち越し) できるように、中高の連携や部の精選等における様々な課題を随時検討し、可能な限り柔軟に対応する。附属中開校 7 年目として、振り返りを行う。			
		・それぞれの部・同好会の特性を活かし、各種大会・発表の場への積極的な参加を促すことで、活動範囲を広げられるよう支援する。			
		・各部活動の大会日程を、職員・生徒に周知することで観戦や応援をしてもらう機会を作り、生徒の自己肯定感を高めるとともに部活外での関係性を良好にする。			
		・日々の活動や生活の中に規範意識をもつとともに、互いに協力し合う精神を育てる。また、活動場所の整理整頓を常に心がけ、活動環境を整備美化する。			
保健安全	・保健衛生的習慣の確立	・健康診断の実施等により、健康状態の把握と的確な保健指導を行う。			
		・適切な応急処置と保健相談活動を実施する。			
		・『保健室関係資料』を周知し、保健室運営を円滑にする。			
	・清掃活動の徹底	・清掃活動を励行し、校舎内外の美化・環境問題への意識を高める。清掃用具の充実を図る。			
	・防災意識の高揚	・『危機管理マニュアル』を更新し、防災避難訓練を遂行する。			
	・環境衛生の整備	・学校薬剤師の助言のもと、環境衛生検査を定期的に実施する。			

別紙様式 2 (高)

	・学校欠席者情報システムへの報告	・各年次・各学年、各担任の協力を得て記録、報告をする。			
	・日本スポーツ振興センター保険の活用	・部活動、各年次・各学年と連絡を密にして有効に活用する。			
図書館	・資料の整備充実と情報化の推進	・図書の購入希望調査を行い利用者のニーズに応えるとともに、バランスの取れた蔵書構成を目指す。			
		・規定に則り、図書の合理的廃棄作業を進め、図書資料の更新に努める。			
		・ICT機器を活用して情報化の推進を図り、授業や探究活動を支援する。			
	・図書館利用の促進	・読書感想文・感想画コンクールへの応募等を、教科と連携して行う。			
		・読書関連のイベントを企画し、読書への関心を高める。			
	・委員会活動の活性化	・広報活動や行事・研修等を通じて、図書委員の主体性を養う。 ・生徒図書委員研修会（県東・中央）に参加し、各高校との交流により委員会活動の活性化を図る。			
渉外	・学校と家庭の連携の充実	・学校行事への保護者の参加率向上を図り、本校の教育活動に対する理解と協力を深める。			
	・状況に応じた事業の円滑な遂行	・社会情勢や学校の実情に応じた柔軟な対応を行うため、関係者及び関係部署との綿密な連携を推進する。			
	・生徒支援委員会の活性化	・生徒支援委員会のさらなる活性化に向け、支援体制の充実を図る。			
1 年次	・基礎学力の向上	・義務教育段階の学習内容の定着度に応じて、目標設定と振り返りをとおして、基礎学力の向上と家庭学習習慣の確立を目指す。			
	・自己管理能力の形成	・基本的生活習慣を土台として、マナーやモラルを大切にすることを育成し、人間関係形成や社会形成に必要な自己管理能力・自己抑制力を養う。			
	・自己理解・社会理解の促進	・総合的な探究の時間を中心とした課題解決型学習をとおして、社会とのかかわりを深めるとともに、自己理解・社会理解を促し、生涯にわたるよりよいキャリア形成の基盤を育む。			
	・自己肯定感の発	・部活動や特別活動への積極的な参加をとおして、自己肯定感の発揚につなが			

別紙様式 2 (高)

	揚	る充実した学校生活の実現を目指す。			
2 年次	・基本的な生活習慣の確立	・基本的な生活習慣を確立させるとともに、スマートフォンやタブレットの使い方について、生徒自身が有効な活用方法を判断できるよう指導する。			
	・進路指導の充実と進路目標の決定	・大学見学会、大学出張講義、卒業生と語る会、オープンキャンパスへの参加をとおり、進路知識を拡大し自身の将来像を具体化する。			
	・進路実現に向けた学習習慣の定着と学力の向上	・知識の理解・定着を促すため、予習・復習を柱とした学習習慣の確立と、自ら計画を立てて実行する力の伸長を図る。			
		・高い進路目標に挑戦する意識の高揚を図るため、授業第一とした上で、模擬試験の復習や各種検定に主体的・継続的に取り組ませる。			
		・課題超過の時期が出ないように、年次内で情報共有を図る。			
	・特別活動への積極的参加と総合的な探究の時間をおとした社会の当事者意識の涵養	・多面的な生徒理解に努め、部活動や学業、探究活動における情報交換を密にし、個々の生徒が力を発揮して活動できるよう支援する。			
		・探究活動や修学旅行をとおりして社会問題への興味関心を深化させるとともに、社会とのつながりを意識させ、生涯にわたるキャリア形成の基盤を作る。			
3 年次	・進路実現に向けた学力の向上	・面談や日常的な関わりによって生徒の進路希望を把握し、支援を適切に行う。			
		・課外授業や個に応じた学習支援を行う。			
		・授業第一とした上で、模試の復習にも主体的・継続的に取り組ませることで、高い進路目標へ挑戦する意識の高揚を図る。			
		・生徒の小さな違和感を見逃さないよう平常時の生徒理解に努め、年次職員間の情報交換を密に行う。			
	・自己管理能力の向上	・身なりや態度についての日常的な支援をとおりして、マナーやモラルを大切にする態度を涵養するとともに、社会の形成者として欠かせない自己管理能力を向上させる。			
		・情報を取捨選択する能力を育み、権利と責任を有する成人として生きるにふさわしい社会観や人生観を醸成する。			

※ 評価基準 A：大変良くできた

B：良くできた

C：普通

D：やや不十分

E：不十分